令和6年度　学校関係者評価報告書

大阪歯科衛生士専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人加藤学園　大阪歯科衛生士専門学校　学校関係者評価委員会は、「令和6年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて、学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価評価委員

区　分	氏　名	
業界関係者	加藤　信次	(歯科医師)
業界関係者	寺澤　一男	(歯科医師)
業界関係者	加藤　　尚	(歯科医師)
業界関係者	大矢　るり子	(歯科衛生士)

実施日　：　令和　7年　5月22日(木)
評価対象:令和6年4月1日～令和7年3月31日

2. 令和5年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取り組み
1. 教育理念・目的 育成人材像	・建学の精神のもと、教育理念・目標を定め、業界のニーズに対応した医療人の育成に努力している。 ・学生の多様化に対応できる教育体制を整え、学生の学習意欲の維持・向上への取り組みがなされている。	・社会のニーズを踏まえた、新たな知識・技術を提供する機会を拡充するとともに、学生個々の能力に応じた個別指導や、効率的な補習などを実施し、中途退学を防ぎ国家試験の合格率100%を毎年達成できるよう、努力する。
2. 学校運営	・運営方針及び事業計画が策定されており、また運営組織やその意思決定の過程も明らかになっている。	・法令倫理に則った、適切なコンプライアンス体制を構築し、それらを共通意識として共有することで、法令順守を徹底していく。
3. 教育活動	・国家試験の合格率の高さや、これまでの長年の実績から考え、教育水準は高いと考えられる。 ・実践的で高度な技術の獲得、医療人としての人間形成、モラルや学習意欲の強化の問題、学習の習熟度の向上など、取り組むべき課題に取り組んでいる。 ・臨床実習を含めた技術教育の充実をはかり、授業の理解が遅れがちな学生への個別対応など、これまで以上に組織的な教育体制の強化・整備が求められる。	・国家試験合格率100%を毎年達成できるように国家試験対策をより工夫したい。 ・法令で定められた教育内容に重点を置きながらも、医療界・社会が求める実践力を持った、歯科衛生士を育成するための方策を議論し、企業や介護医療現場の講師による特別授業の実施など、業界と連携したよる実践的な技術を身に付ける教育に積極的に取組む。 ・臨床実習の充実を図り、業界のニーズに対応できる技術力のある歯科衛生士養成に努力する。
4. 教育成果	・数年連続で、国家試験の不合格者が出ている。その原因ををを分析し指導方法を見直したい。 ・退学の要因となる学習意欲の低下や、成績不良への対策として、担任等による定期的な面談が、効果を上げている。 ・卒業生の医療現場での活躍が、評価を得て、後輩への求人数増加につながっている。	・学生が早い時点から、国家試験に向き合い危機感を持って勉強に取り組むように意識付けを行う。 ・成績不良者に対する面談や、補習授業・保護者との連携を通じて、学生の学習意欲の向上を図り、学力の向上と退学率の低減に努める。 ・卒業後の動向、業界関係者への情報収集を行いそれらの情報を在学生・保護者・受験生に還元する。

5. 学生支援	・就職支援、学生相談、奨学金制度等、様々な方法で、学生支援を行っている。 ・学習面はもとより、精神的なケア、生活面・健康面でのサポートもより充実させたい。 ・業界のニーズに応えて、卒業生へのサポート体制をより充実して欲しい。	・複数回実施している面談によって、学生支援は十分に行っているが、家庭の事情が複雑な学生も増えている。学生の状況に応じて、適切に対応していきたい。 ・卒業生への再就職サポートは従来より行っているが、利用者が少ない。急募求人情報をネット化も行っているが、利用者が少ないので、十分な告知を行いたい。
6. 教育環境	・法令に定められている教育環境にあり、毎年訓練を行い、防災への取組も評価できる。 ・臨床実習施設との連携も行われているが、種類を増やすためにも、新規開拓が必要だと思われる。	・設備・施設に関して、定期的な見直しと、計画的に更新し充実させたい。 ・社会のニーズに合わせた内容の臨床実習ができるように、授業内容や実習設備の充実を図りたい。 ・リモート授業の充実、アーカイブを残すことも検討する。
7. 学生の募集と受け入れ	・大阪府専修学校各種学校連合会の規定や、法令に則り、適切に学生募集が行われている。 ・オープンキャンパスの参加者から出願に繋がる率が年々低下しているように思える。本校の魅力を十分に伝えることが必要である。 ・今年度は、初めて入学定員を割ってしまった。18歳人口の減少も原因と考えれれるが、競合校の新設や、歯科衛生士の職業認知の低さがそもそもの原因と考えられる。	・コロナ以来応募者が減少し、選別を行うことが難しくなっており、モチベーションの低い者も入学してしいる。 ・各種イベントの来校者に、より良いイメージを持たせ出願につながるように内容を見直し、充実をはかりたい。在校生を全面的に押し出し、活性化させたい。 ・高校生に、本校及び歯科衛生士の認知を増やしていく為に、LINEやInstagram等のSNSを活用し、高校生にアピールをしていく。You Tube等での動画配信についても検討していく。
8. 財務	・借入金もなく、健全な学校経営により、安定した財務基盤を築いている。 ・厳しい学生募集状況が続くことにより、財務基盤が弱体化する恐れもあるため、安定した学生の確保と、退学防止、経費等の削減になお一層努める必要がある。	・会計事務所による、健全な財務指導と、学校経営を維持するとともに、学生募集の強化、在校生の退学率の低減、経費削減に努める。 ・設備の定期的な更新のためにも、更新計画を立て余裕を持って準備をしておく必要がある。 ・新入生の減少は、財政に直接響くため、注意する。
9. 法令等の遵守	・法令を遵守し、自己点検・自己評価を行うと共に、それらの情報を公開する必要がある。 ・コンプライアンス推進体制の強化が望まれる。	・法令遵守にあたっては、各種規定を整備し、会議等により全教職員間に対して周知徹底を図り、コンプライアンスを推進する体制を強化する。

3. 総評

上記9項目に対し、委員による評価は良好であったことから、大阪歯科衛生士専門学校の教育活動、学校運営は、概ね高い水準で維持されているものと評価する。

令和6年度は、病院での受入れ態勢も戻り、通常の臨床実習を行うことができた。ただ、新型コロナは消滅したわけではなく、小規模な感染流行を繰り返しているので、引き続き感染予防には注意が必要である。

国家試験対策授業の映像化と学生が繰り返し閲覧できるように、WEB上で公開できるよう検討・準備していく。

歯科医療の現場では、歯科衛生士不足が続いており、技術力のある即戦力となる歯科衛生士を可能な限り養成することが求められている。国会で検討された「国民皆歯科検診」の義務化については、進展は無いが、実現すれば、歯科衛生士のニーズは益々増加することが予測される。休眠状態の有資格者に対し、いかにして現場復帰を促すかが課題となっている昨今、本校の卒業生へのサポート体制は大変評価できると言える。

実践的な臨床教育の整備並びに学生の学力向上の取組を行い、常に時代のニーズに即した歯科衛生士の養成を行い、校長を中心に教職員一丸となって、教育の質の向上になお一層の努力を望みます。

以上